

日本学術会議における国際活動の手引き

—第 22 期会員及び連携会員の皆様へ—



平成 23 年 10 月

「日本学術会議における国際活動の手引き」について

このたび、第 22 期の会員及び連携会員の皆様宛てに、日本学術会議の国際活動の手引きを作成いたしました。

今般、本手引きを作成した趣旨は、会員及び連携会員の皆様に、日本学術会議の国際活動の概要を御理解いただき、さらに国際活動に係る諸制度（国際会議等への代表派遣、国内で開催される国際会議の共同主催、及び国際会議への後援など）を、より効果的に御利用いただくことを意図しています。また、より幅広い視点から、国際活動の一層の活性化や改善のための有益な御意見をいただくことも念頭においております。

日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、国際学術交流事業などの国際活動を積極的に推進しています。日本学術会議が総体として行う国際活動の日頃の運営は、会長、国際担当副会長、及び関連の委員会や分科会等の委員に限られがちですが、この手引きを手始めに、できるだけ多くの会員及び連携会員の皆様に、日本学術会議の国際活動に御関心をお持ちいただき、積極的にご参画いただければと考えています。

これまでの国際活動の詳細な実績や成果については、日本学術会議ホームページ等に適宜掲載しておりますので、そちらも是非参照していただきますようお願いいたします。

是非、第 22 期の会員及び連携会員の皆様におかれましては、日本学術会議科学者委員会作成の「会員及び連携会員の手引き」とともに、本手引きを御高覧いただき、日本学術会議の活動の充実にお役立ていただくことを願っております。

平成 23 年 9 月

第 21 期 国際担当副会長

目 次

1	日本学術会議の国際活動の概要	1
	(参考資料1) 日本学術会議の活動(国際編)	2
2	国際活動に関する委員会・分科会	4
3	国際活動に関する手続きについて	5
3-1	加入国際学術団体等への代表の派遣	5
3-2	国際会議の国内での共同主催	7
3-3	国内で開催する国際会議の後援	12
3-4	国際学術団体への加入	12
	(参考資料2) 日本学術会議の組織(英語版)	14

(備考) 日本学術会議の活動(国際編)は、21期の学術会議パンフレットの該当ページに直近の活動を加えたものです。22期のパンフレットが完成次第、該当部分の差し替え版を配布することとしていますので、御関心をお持ちの場合は事務局(国際業務担当)までお問い合わせ下さい。

1 日本学術会議の国際活動の概要

日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、枢要な国際学術団体に加盟し、世界各国のアカデミー（学術会議）と連携しつつ、国際活動を積極的に推進しています。また、国外の重要な国際会議への代表の派遣や、国内で開催される国際会議の主催（共同主催）や後援などを通じ、国際学術団体との連携を図っています。

東日本大震災以後は、大震災及び原発事故に関する情報の海外アカデミーへの発信や、国際シンポジウムへの講演者の派遣などの対応も進めています。

<各国アカデミーとの連携・交流>

○G8 学術会議の共同声明

毎年、サミットに先立ち開催される G8 学術会議に参加し、共同声明を取りまとめて公表。総理に手交。

○アジア学術会議

アジア域内での学術交流と協力を促進するために設立したアジア学術会議（SCA）の事務局として、同会議の活動を推進。

○その他、各国アカデミーとの交流

<国際学術団体への加盟・貢献>

○国際科学会議（ICSU）

世界各国のアカデミーと各学術分野の国際学術団体が加盟。

○インターアカデミーパネル（IAP）、インターアカデミーカウンシル（IAC）

各国アカデミーのフォーラム。科学的助言を発信。

○その他、各学術分野の国際学術団体に加盟

<国際会議・シンポジウムの開催等>

○持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議

毎年、地球規模の課題解決のための国際シンポジウムを開催。

○共同主催国際会議

国内で開催される重要な国際会議を、関係の学術研究団体（学協会）と共同で主催。

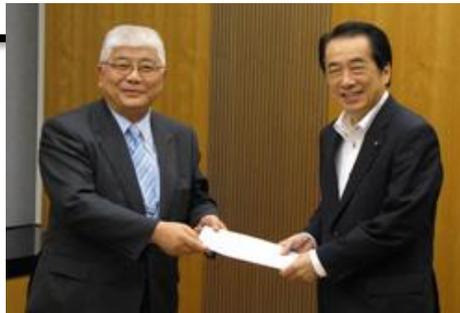
○国際会議への代表派遣

国外で開催される国際学術会議の総会などに、日本学術会議の代表として会員・連携会員を派遣。

1. 日本学術会議の活動（国際編）

G8 学術会議共同声明

G8 各国アカデミー（学術団体）とインド、ブラジル、南アフリカ、メキシコ、セネガルのアカデミーは、平成 23 年 5 月のフランスドーヴィルサミットに先立ち、3 月に G8 学術会議をパリで開催し、「科学を基盤とする世界の発展のための教育」及び「水と健康」についての共同声明を取りまとめ、同年 5 月 19 日に各国同時に公表しました。我が国では、金澤会長から菅内閣総理大臣に共同声明を手交しました。



平成 24 年は、次のサミット開催国であるアメリカで取りまとめられる予定です。

アジア学術会議（SCA）

アジア学術会議（Science Council of Asia: SCA）は、アジア地域における学術的な共同研究と協力を促進するため、日本学術会議の提唱により平成 12 年に設立されました。①アジア諸国間の科学の現状に関する情報交換、②アジア地域における幅広い科学分野の共同研究と協力の推進、③アジア科学者間の相互理解と信頼の深化を目的に活動を推進しています。現在、バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの 12 カ国 20 の学術機関等により構成され、日本学術会議が事務局を担っています。

平成 13 年の第 1 回会議（タイ開催）以来、毎年、加盟国による持ち回り開催を行っています。会議内容としては、組織・運営等に関する「理事会、総会」の他、開催国が選定したテーマの下で研究報告・成果等について発表・提言等を行う「国際シンポジウム」を開催しています。また、アジアの学術的課題の克服等のために「共同プロジェクト」（自然災害、水資源管理、海洋安全、地震電磁気、みつばち、ジェンダー、エネルギー投資、情報、ポップカルチャーなど多様な分野）を立ち上げ、活動を行ってきました。こうした活動は、国際援助機関と連携・協力しながら、プロジェクトの一層の推進を図っています。

平成 23 年度は第 11 回会議（モンゴル開催）を Combating Land Degradation in Asia のテーマの下で開催しました。平成 24 年度はインドネシア（ボゴール）において、Mobilizing Science toward Green Economy をテーマに開催する予定です。

国際会議、シンポジウムの開催

日本学術会議では、持続可能な社会の構築にむけた制度設計とその実現に向け、地球規模の課題に対し様々な側面から議論を行い、その解決策を探るため、「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際シンポジウム」を平成 15 年度以降毎年開催しています。

平成 22 年 12 月 16、17 日には、ホテル金沢において「生物多様性の保全と持続可能な利用」をテーマに開催しました。

また、日本学術会議では、学術の振興及び科学的諸問題の解決の促進等に寄与するため、国内で開催される学術研究団体が主催する国際会議のうち、「学問的意義が高く」、「科学的諸問題の解決を促進する」等、特に重要と認められる国際会議について、昭和 28 年度以降、国内学術研究団体と共同して開催しています。これらの国際会議は、閣議口頭了解に基づき開催されており、例年、皇室の御臨席を賜る機会も得ています。

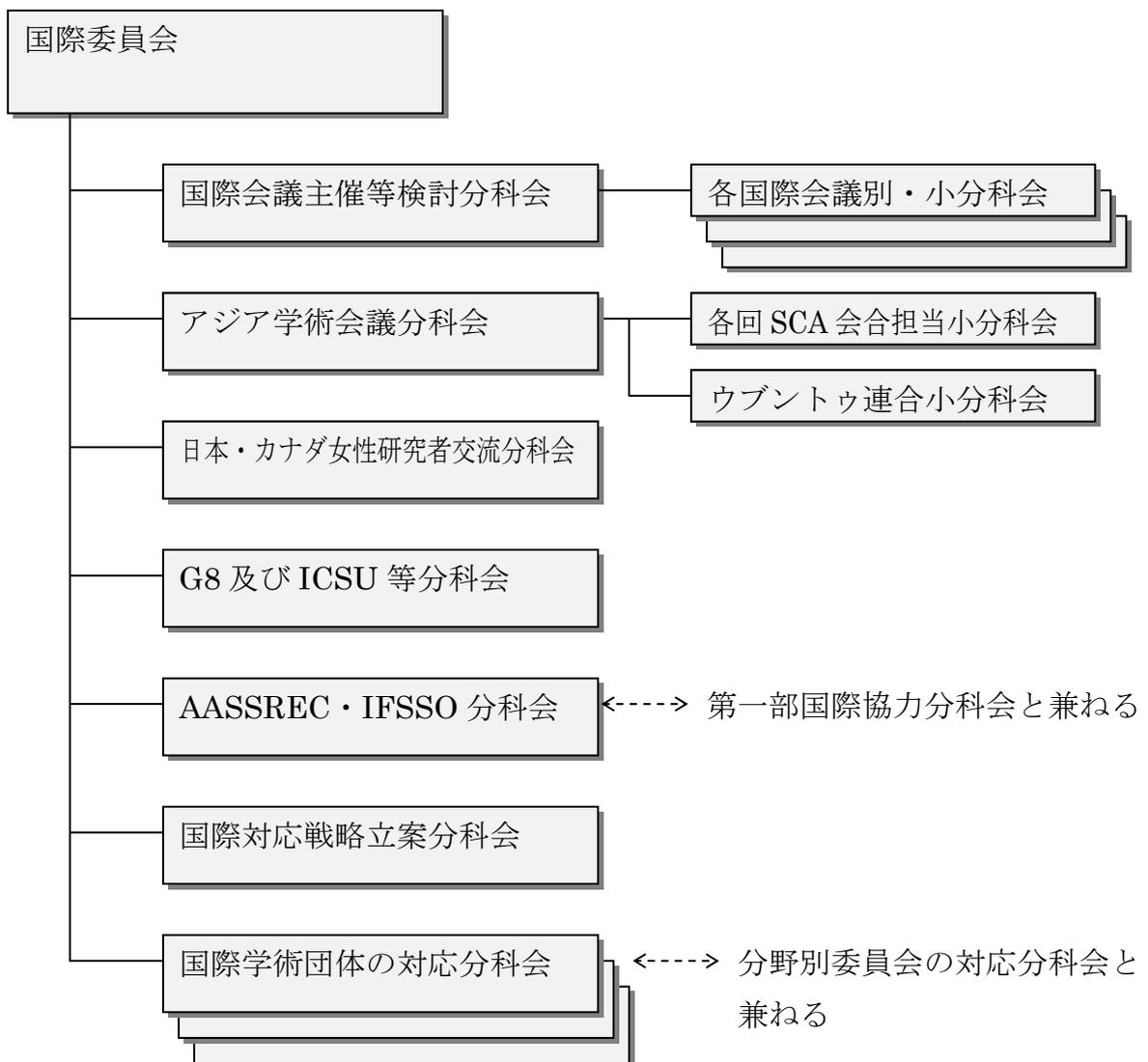
平成 22 年度においては、計 7 件が開催されました。

2 国際活動に関する委員会・分科会

日本学術会議の国際活動の全体的な企画・運営は、機能別委員会の一つである国際委員会が担当します。国際委員会は、会長、国際担当副会長、及び各部からの会員・連携会員により構成されて、国際担当副会長が委員長となります。

個々の国際活動については、国際委員会の下にそれぞれ対応する分科会が設置され、企画・運営等を行います。なお、これらの分科会のうち、日本学術会議が加盟している国際学術団体（学術分野別）の対応分科会は、該当する学術分野の分野別委員会の分科会を兼ねています。

<国際委員会の分科会の構成（予定）>



3 国際活動に関する手続きについて

国外の国際会議（加入国際団体の総会等）への代表の派遣や、国内開催の国際会議の共同主催につきましては、予算等の制約により、実施できる件数に限りがあります。このため、事前に一定の期間に申請をしていただき、所定の件数に絞った上で、幹事会に提案するという手順を踏んでいますので、御理解いただきますようお願いいたします。

幹事会において承認・決定されますと、代表派遣については所定の旅費（航空運賃、宿泊費）及び日当を支給し、共同主催会議については、閣議決定を行い、会場借料の一部等を負担します。

（「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」に準拠します。）

3-1 加入国際団体等への代表の派遣

（目的）

外国で開催される学術に関する国際会議等に学術会議の代表を派遣することにより、世界の学会との連携、国際学術団体の運営への参画、学術に関する動向の把握、研究の連絡並びに情報の収集及び交換等を行う。

（対象となる学術に関する国際会議等）

- ・国際学術団体の総会及び運営に関する会議
- ・国際学術団体等が行う国際協力事業の企画及び運営を目的とする会議
- ・学術に関する国際会議のうち特に重要なもので、当該会議の母体となる国際学術団体又はそれに準ずる組織等から我が国代表の出席を求められている会議
- ・学術会議がその職務を果たす上から必要な研究の連絡、情報の収集及び交換等を行うため代表を派遣する会議等

（手続き等）

- ・会長は、上記の国際会議等について、会議開催年度の前年度の11月中に、国内委員会及び国際委員会委員長（以下、関係委員長という。）に対し、代表派遣会議推薦調書及び代表派遣会議調書の提出を依頼し、この依頼を受け、関係委員長は、同前年度の1月上旬までに上記書類を提出する。
- ・会長は、国際委員会に配分計画の策定を依頼し、同1月中に配分計画案の提出を受け、同3月中の幹事会にて派遣実施計画の承認を得る。

（備考：事務局お問合せ先 国際業務総括担当（電話：03-3403-5731））

平成23年度代表派遣実施計画

＜第1区分＞

番号	会議名	会期	開催地	派遣人員
1	国際実験動物科学会議 総会・幹部役員会議・理事会	2011/6/9 ~ 2011/6/13	イスタンブール (トルコ)	1
2	第22回太平洋学会会議	2011/6/14 ~ 2011/6/17	クアラルンプール (マレーシア)	2
3	第25回国際測地学・地球物理学連合総会	2011/6/28 ~ 2011/7/7	メルボルン (オーストラリア)	2
4	第15回国際地図学協会総会・第25回国際地図学会議	2011/7/3 ~ 2011/7/8	パリ (フランス)	2
5	第14回国際科学基礎論会議	2011/7/19 ~ 2011/7/26	ナンシー (フランス)	1
6	第18回国際第四紀学連合大会	2011/7/20 ~ 2011/7/27	ベルン (スイス)	2
7	第46回IUPAC総会/第43回IUPAC会議	2011/7/27 ~ 2011/8/5	サンフアン (プエルトリコ)	2
8	第30回国際電波科学連合(URSI)総会	2011/8/13 ~ 2011/8/20	イスタンブール (トルコ)	2
9	第22回国際結晶学連合会議	2011/8/22 ~ 2011/8/30	マドリッド (スペイン)	2
10	第18回国際自動制御連盟世界大会・総会・理事会・関連役員会	2011/8/28 ~ 2011/9/2	ミラノ (イタリア)	2
11	世界工学団体連盟理事会、総会及び2011年世界技術者会議	2011/9/2 ~ 2011/9/9	ジュネーブ (スイス)	1
12	国際科学会議第30回総会	2011/9/27 ~ 2011/9/30	ローマ (イタリア)	2
13	アジア社会科学研究協議会連盟 第19回隔年総会・大会	2011/10/16 ~ 2011/10/19	マナド (インドネシア)	2
14	第17回IUPAB国際会議/第18回IUPAB総会	2011/10/30 ~ 2011/11/3	北京 (中国)	1
15	純正及び応用物理学国際連合(IUPAP)総会	2011/10/31 ~ 2011/11/5	ロンドン (英国)	2
16	国際社会科学団体連盟・隔年次総会	2011/11/18 ~ 2011/11/20	バタンガス (フィリピン)	2
				28

＜第2区分＞

番号	会議名	会期	開催地	派遣人員
1	南極研究科学委員会評議会・議長会合(SCAR EXCOM/ COs meeting)	2011/7/16 ~ 2011/7/19	エジンバラ (英国)	1
2	2011年度海洋研究科学委員会(SCOR)執行理事会	2011/9/12 ~ 2011/9/15	ヘルシンキ (フィンランド)	1
3	国際地理学連合2011年国際地理学会議	2011/11/12 ~ 2011/11/18	サンチャゴ (チリ)	1
4	第12回IAC理事会	2012/3/3 ~ 2012/3/4	アムステルダム (オランダ)	1
5	宇宙空間研究委員会・第78回理事会	2012/3/21 ~ 2012/3/22	パリ (フランス)	1
				5

＜第3区分＞

番号	会議名	会期	開催地	派遣人員
1	国際宗教学宗教史学会 理事会	2011/6/30 ~ 2011/7/3	ティンブー (ブータン)	1
2	国際人類民族科学連合中間会議2011	2011/7/5 ~ 2011/7/8	パース (オーストラリア)	1
3	哲学系諸学会国際連合運営委員会	2011/9/18 ~ 2011/9/21	ツレス (クロアチア)	1
				3

＜特別派遣＞

番号	会議名	会期	開催地	派遣人員
1	第40回地質科学国際研究計画(IGCP)本部理事会	2012/2/16 ~ 2012/2/18	パリ (フランス)	1
				1

3-2 国際会議の国内での共同主催

(申請)

- ・共同主催の申請をしようとする国際会議に対応する学術研究団体の代表者は、当該会議の日本開催が決定したときは、会長に申請を行うことができる。
- ・国際会議を開催する年度の3年度前の11月末日までに提出するものとする。
(※平成23年10月～11月に、平成26年度開催分について申請を受け付けます。)

(共同主催国際会議の概要、開催支援等) ・8ページ参照。

(共同主催国際会議の開催までの流れ) ・9ページ参照。

(共同主催の国際会議の要件)

- ・母体団体において、国際会議の日本開催が決定したものであること。
- ・母体団体の協力が得られること。
- ・国際会議に対応する学術研究団体に設置される運営のための委員会が、すでに国際会議の計画及び準備を進めていること。
- ・国際会議の構成、予算、主要題目及び日程等が適当であること。
- ・国外参加国10か国、国外参加者が50人以上となることが明らかであること。

等

(国際会議として備えるべき点)

- ・主題となる研究の我が国の水準が世界水準を超えているものであること。
- ・主題となる研究が複合又は学際領域であること。
- ・主題となる研究が人文科学部門及び自然科学部門を複合する領域のものであること。
- ・我が国及び世界において共通する科学的諸問題の解決を促進するものであること。
- ・関係分野に影響を与え学術の振興に寄与するものであること。

他

(開催の決定)

- ・開催の決定は、開催前年度の前半に閣議了解をもって決定されます。

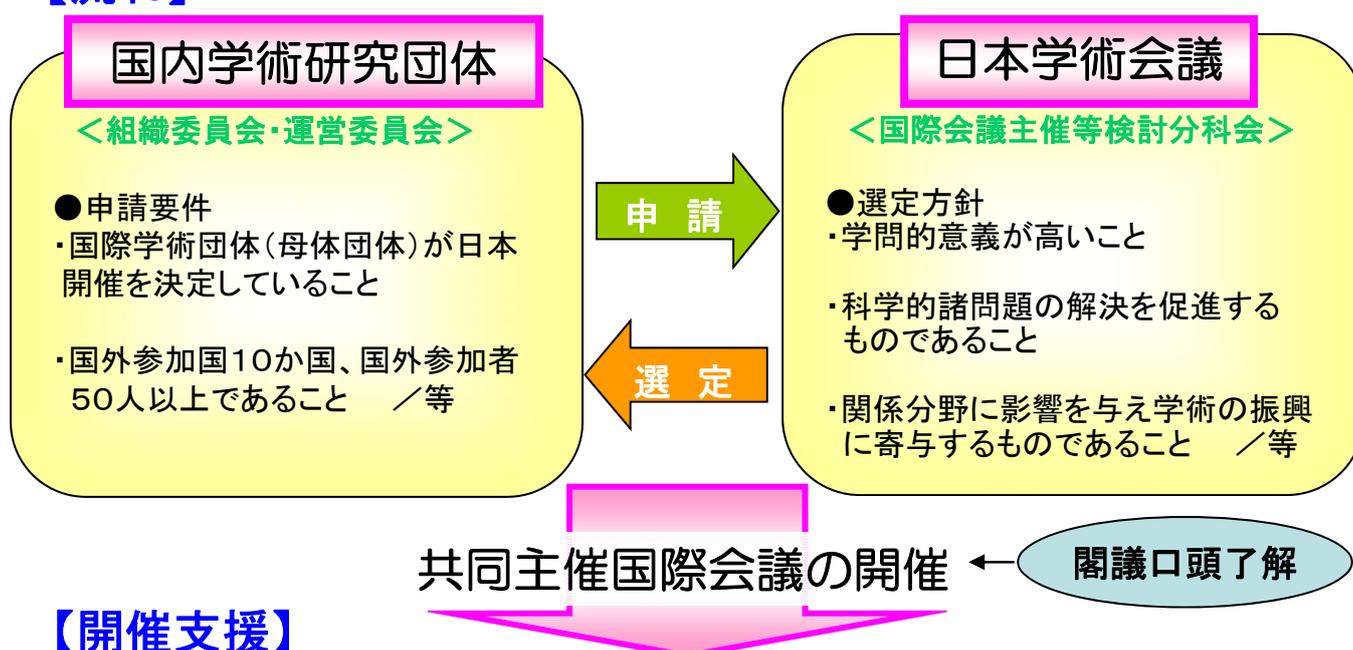
(備考：事務局御問合せ先 国際業務国際会議担当 (電話：03-3403-5731))

日本学術会議の行う共同主催国際会議

【概要】

学術の振興及び科学的諸問題の解決の促進等に寄与するため、国内学術研究団体と共同して国際会議を開催する。(昭和28年度～)
【例年7件開催。平成22年度までに263件の開催実績】

【流れ】



【開催支援】

- 会場借料等(※)の一部負担
- 総理大臣メッセージ取得
- 皇室御臨席の調整
- 日本学術会議会長による主催者挨拶

※会場借料(学術的使用分)、基調講演者等の滞在費を予算の範囲内で負担

【効果】

- 世界トップレベルの研究者を招へい
→ 国内若手研究者の研究支援・育成、国内外の学術振興
- 国際的な学術研究団体との組織的な交流
→ 世界的課題に対する研究者のネットワーク構築、国際親善
- 市民公開講座開催促進
→ 研究成果の社会への還元

共同主催国際会議の開催までの流れ

年度	月	申請者	日本学術会議	会議の位置づけ
3年度前	10月～ 11月末	<ul style="list-style-type: none"> ・申請事前相談 ・共同主催申請書類の提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・共同主催申請の募集 (HP等に掲載) 	共同主催 申請国際会議 (申請後)
	1月 2月	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ・国際会議主催等検討分科会におけるヒアリング </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査(共同主催要件の確認) ・日本学術会議幹事会において共同主催候補を決定→合否結果の通知 	共同主催 国際会議候補 (幹事会決定後)
2年度前	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の準備状況に関する資料の提出 (閣議口頭了解・予算要求用) 		
前年度	4月		<ul style="list-style-type: none"> ・閣議口頭了解→正式決定の通知 	共同主催 国際会議 (決定通知後)
	5月 8月 12月 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の準備状況に関する資料の提出 (会議開催基礎資料) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> ・準備、運営に関する合意書締結 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・皇室御臨席の希望調査 ・国際会議小分科会の発足 ・開催年度経費概算要求(財務省へ) ・開催年度予算政府案決定 ・開催年度予算成立 	
開催年度	開催前 開催後	<ul style="list-style-type: none"> ・会議開催資料の提出 (国費措置・会場対応用) ・会議後資料の提出 (会議後処理用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣総理大臣メッセージ取得 ・会議開催対応 ・経費執行手続 	

日本学術会議[平成23年度共同主催国際会議一覧]

会議名		開催予定情報				
1	第8回国際比較生理生化学会議 8th International Congress of Comparative Physiology and Biochemistry (ICCPB2011JAPAN) ■母体団体:比較生理生化学国際連合 (IACPB: International Association of Comparative Physiology and Biochemistry) ■主催学会:日本比較生理生化学会	参加人数	国外	120	同伴者	6
			国内	280	同伴者	10
			合計	400	合計	16
		国数	[16カ国/1地域]			
		会議内容	会議テーマ:「生物多様性の生理学的基礎」 主要題目:多様な生物の、感覚運動機構、体内時計調節機構、体温調節機構、浸透圧調節機構、生殖戦略、採餌戦略、など			
期間	平成23年5月31日(火)~6月5日(日) [6日間]					
場所	名古屋国際会議場[愛知県名古屋市]					
間隔	4年ごと [日本開催:20年振り2回目]					
2	2011年国際電気通信会議 International Conference on Communications 2011 (ICC2011) ■母体団体:電気電子学会 通信ソサイエティ (IEEE: The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. Communications Society) ■主催学会:社団法人電子情報通信学会 通信ソサイエティ	参加人数	国外	800	同伴者	180
			国内	400	同伴者	20
			合計	1200	合計	200
		国数	[42カ国/1地域]			
		会議内容	会議テーマ:「Source of Innovation: Back to the Origin(「新たなイノベーションに向けて:原点への回帰」)」 主要題目:次世代ネットワーク、光通信システム、無線通信、センサーネットワーク、信号処理、通信理論、通信ソフトウェア、セキュリティ、通信品質と信頼性理論、など			
期間	平成23年6月5日(日)~6月9日(木) [5日間]					
場所	国立京都国際会館 [京都府京都市]					
間隔	毎年 [日本開催:初]					
3	第44回万国外科学会 International Surgical Week (ISW2011) ■母体団体:万国外科学会 (ISS/SIC:International Society of Surgery (ISS), Societe Internationale de Chirurgie (SIC)) ■主催学会:第44回万国外科学会組織委員会	参加人数	国外	1000	同伴者	130
			国内	2000	同伴者	20
			合計	3000	合計	150
		国数	[66カ国/1地域]			
		会議内容	会議テーマ:「外科学の未来を拓く-Exploring the Future of Surgery」			
期間	平成23年8月28日(日)~9月1日(木) [5日間]					
場所	パシフィコ横浜 [神奈川県横浜市]					
間隔	2年ごと [日本開催:34年振り2回目]					
4	国際微生物学連合2011会議 International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (IUMS 2011 Congress) ■母体団体:国際微生物学連合 (IUMS: International Union of Microbiological Societies) ■主催学会:日本微生物学連盟	参加人数	国外	2000	同伴者	60
			国内	4000	同伴者	60
			合計	6000	合計	120
		国数	[82カ国/2地域]			
		会議内容	会議テーマ:「The Unlimited World of Microbes、限りなく広がる微生物の世界」 主要題目:細菌学、応用微生物学、など			
期間	平成23年9月6日(火)~9月16日(金) [11日間]					
場所	札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター [北海道札幌市]					
間隔	3年ごと [日本開催:21年振り4回目]					
5	CIGR(国際農業工学会)国際シンポジウム2011 持続的生物生産-水、エネルギー、食料- CIGR International Symposium 2011 on Sustainable Bioproduction - Water, Energy, and Food ■母体団体:国際農業工学会 (CIGR, Commission Internationale du Genie Rural / The International Commission of Agricultural and Biosystems Engineering) ■主催学会:日本農業工学会	参加人数	国外	150	同伴者	25
			国内	250	同伴者	25
			合計	400	合計	50
		国数	[34カ国/1地域]			
		会議内容	会議テーマ:「持続的生物生産-水、エネルギー、食料」 主要題目:持続的生物生産のための農業生産環境の評価・解明・利用、人類に不可欠な安全・安心で高品質な食料生産の増強、など			
期間	平成23年9月19日(月)~9月23日(金) [5日間]					
場所	タワーホール船堀 [東京都江戸川区]					
間隔	2年ごと [日本開催:初]					
6	ワールドスリープ2011 The 6th World Congress of the World Sleep Federation (Worldsleep2011) ■母体団体:世界睡眠連合 (WSF: World Sleep Federation) ■主催学会:一般社団法人日本睡眠学会	参加人数	国外	1200	同伴者	50
			国内	1800	同伴者	50
			合計	3000	合計	100
		国数	[49カ国/1地域]			
		会議内容	会議テーマ:「New Horizons of Sleep Research for Our Planet」(地球環境における睡眠研究の新たな地平) 主要題目:睡眠障害、ナルコレプシー、など			
期間	平成23年10月15日(土)~10月20日(木) [6日間]					
場所	国立京都国際会館、京都府会館 [京都府京都市]					
間隔	4年ごと [日本開催:初]					

日本学術会議[平成24年度共同主催国際会議一覧]

会議名		開催予定情報				
1	第14回IACIS国際会議 14th International Association of Colloid and Interface Scientists Conference(IACIS Conference) ■母体団体: 国際コロイド・界面科学者連盟 (IACIS: International Association of Colloid and Interface Scientists) ■主催学会: 公益社団法人 日本化学会	参加人数	国外	400	同伴者	15
			国内	600	同伴者	15
			合計	1000	合計	30
		国数	[37カ国]			
会議内容	会議テーマ:「Colloid and Interface Science for Society: basics to Innovations (社会のためのコロイドおよび界面科学:基礎からイノベーションまで)」 主要題目: 溶液中の分子集合体、微粒子・コロイド分散系、超分子組織化システム、ナノ構造表面と材料、コロイドおよび界面化学の新技术、テクノロジー 応用と製品					
期間	平成24年5月13日(日)~5月18日(金) [6日間]					
場所	仙台国際センター [宮城県仙台市]					
間隔	3年ごと [日本開催: 24年振り2回目]					
2	第25回ニュートリノ・宇宙物理国際会議 The XXV International Conference on Neutrino Physics and Astrophysics (Neutrino2012) ■母体団体: 国際ニュートリノ委員会(INC: International Neutrino Commission) 国際純粋・応用物理学連合 C11分化(素粒子と場)[予定] (IUPAP: International Union of Pure and Applied Physics C11: Commission on Particles and Fields) ■主催学会: 社団法人 日本物理学会	参加人数	国外	250	同伴者	30
			国内	150	同伴者	10
			合計	400	合計	40
		国数	[26カ国/1地域]			
会議内容	会議テーマ:「ニュートリノ振動の究明、ニュートリノ質量の研究、ニュートリノと宇宙物理の新たな展開」 主要題目: 太陽ニュートリノ、原子炉ニュートリノ、大気ニュートリノ、など					
期間	平成24年6月3日(日)~6月9日(土) [7日間]					
場所	京都府民総合交流プラザ 京都テルサ [京都府京都市]					
間隔	2年ごと [日本開催: 14年振り3回目]					
3	第26回国際計量生物学会議 The XXVIth International Biometric Conference (IBC2012) ■母体団体: 国際計量生物学会 (IBS: International Biometric Society) ■主催学会: 日本計量生物学会	参加人数	国外	450	同伴者	15
			国内	350	同伴者	5
			合計	800	合計	20
		国数	[49カ国/1地域]			
会議内容	会議テーマ:「計量生物学の社会貢献」 主要題目: 臨床試験による治療法の有効性評価、ゲノム創薬、医薬品市販後の安全性の検証、環境汚染物質アセスメント、などに関する統計的方法					
期間	平成24年8月26日(日)~8月31日(金) [6日間]					
場所	神戸国際会議場 [兵庫県神戸市]					
間隔	2年ごと [日本開催: 28年振り2回目]					
4	第16回国際アルコール医学生物学会総会 The 16th congress of International Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA) ■母体団体: 国際アルコール医学生物学会 (ISBRA: International Society for Biomedical Research on Alcoholism) ■主催学会: 日本アルコール・薬物医学会	参加人数	国外	350	同伴者	50
			国内	350	同伴者	50
			合計	700	合計	100
		国数	[33カ国/3地域]			
会議内容	会議テーマ:「21世紀におけるアルコール・薬物依存の医学生物学の潮流~グローバルな研究・臨床の展開」 主要題目: アルコール・薬物依存の治療戦略ー基礎と臨床、アルコール関連問題と自殺、アルコール・薬物依存と犯罪、高齢化社会における飲酒問題対策、など					
期間	平成24年9月9日(日)~9月12日(水) [4日間]					
場所	札幌コンベンションセンター [北海道札幌市]					
間隔	2年ごと [日本開催: 12年振り3回目]					
5	第19回国際質量分析会議 19th International Mass Spectrometry Conference (IMSC) ■母体団体: 国際質量分析協会 (IMSF: International Mass Spectrometry Foundation) ■主催学会: 日本質量分析学会	参加人数	国外	1000	同伴者	125
			国内	1000	同伴者	25
			合計	2000	合計	150
		国数	[40カ国]			
会議内容	会議テーマ:「21世紀のグローバル課題を解決する質量計測科学(仮題)」 主要題目: 気相化学(イオン化、解離)、質量分離科学、粒子検出計測科学、応用研究、など					
期間	平成24年9月15日(土)~9月21日(金) [7日間]					
場所	国立京都国際会館 [京都府京都市]					
間隔	3年ごと [日本開催: 初]					
6	第32回国際泌尿器科学会総会 32nd Congress of the Société Internationale d' Urologie (SIU) ■母体団体: 国際泌尿器科学会 (SIU: Société Internationale d' Urologie) ■主催学会: 社団法人 日本泌尿器科学会	参加人数	国外	3000	同伴者	200
			国内	1500	同伴者	50
			合計	4500	合計	250
		国数	[105カ国/2地域]			
会議内容	会議テーマ:「泌尿器科学の新たな未来を拓く」 主要題目: 前立腺癌、腎癌を含む各種泌尿器科領域の癌、前立腺肥大症を含む閉塞性下部尿路疾患、過活動膀胱、尿路結石症などの最新の診断・治療についての基調講演及びパネル討論、など					
期間	平成24年9月30日(日)~10月4日(木) [5日間]					
場所	福岡国際会議場、福岡サンパレス、福岡国際センター、エルガーラホール [福岡県福岡市]					
間隔	2~3年ごと [日本開催: 42年振り2回目]					
7	第21回パターン認識国際会議 The 21st International Conference on Pattern Recognition (ICPR2012) ■母体団体: 母体団体: パターン認識国際連盟 (IAPR: International Association for Pattern Recognition) ■主催学会: 一般社団法人 情報処理学会、 社団法人 電子情報通信学会 情報・システムソサイエティ	参加人数	国外	600	同伴者	-
			国内	300	同伴者	-
			合計	900	合計	-
		国数	[40カ国/2地域]			
会議内容	会議テーマ:「人を支援する技術としてのパターン認識」 主要題目: コンピュータ視覚とロボット視覚、仮想現実と医用応用、パターン認識、信号音声ビデオ処理、文書解析					
期間	平成24年11月11日(日)~11月15日(木) [5日間]					
場所	つくば国際会議場(エポカルつくば) [茨城県つくば市]					
間隔	2年ごと [日本開催: 34年振り2回目]					

3-3 国内で開催する国際会議の後援

(後援申請期限)

- ・国際会議を主催する学術研究団体又はこれに準ずる団体の代表者は、当該会議開催予定日の3ヶ月前までに会長に学術会議の後援の申請を行うことができる。(ただし、二国間国際会議については、4ヶ月前。)

(後援の要件)

- ・主題となる研究が、我が国及び世界の学術の進歩に貢献するものであること。
- ・母体団体等において、国際会議の日本開催が決定したものであること。
- ・計画内容が明確であること。
- ・参加国及び国外参加者等が、国際会議として適当なものであること。
- ・営利を目的としないものであること。
- ・主催国際団体の責任及び公的性格が明確であること。
- ・二国間国際会議の場合は、学術研究団体が主催等をしていること。

(決定等)

- ・会長は、幹事会の議決を経て、後援の可否を決定し、その旨を申請者に通知する。
- ・なお、学術会議は後援する国際会議に要する経費は負担しません。

3-4 国際学術団体への加入

①現在、日本学術会議は46の国際学術団体に加盟(2011年10月1日時点)。

(第一部関連:8、第二部関連:11、第三部関連:23、分野横断:4(ICSU、IAP、IAC、SCA))

- ・現在、新規加入の申請書が提出されている団体:7団体

②日本学術会議が新規加入する場合の手続

- ・学術研究団体内に国内対応委員会を設置(ない場合は学術会議内に国際対応分科会を設置)
- ・同対応委員長から会長宛てに申請書の提出。
- ・学術会議内(国際委員会)で加入の是非について審議し決定。
- ・予算措置の確保。 ・幹事会決定 ・内閣総理大臣の了承手続き。
(・団体加入手続き→総会で加入報告)

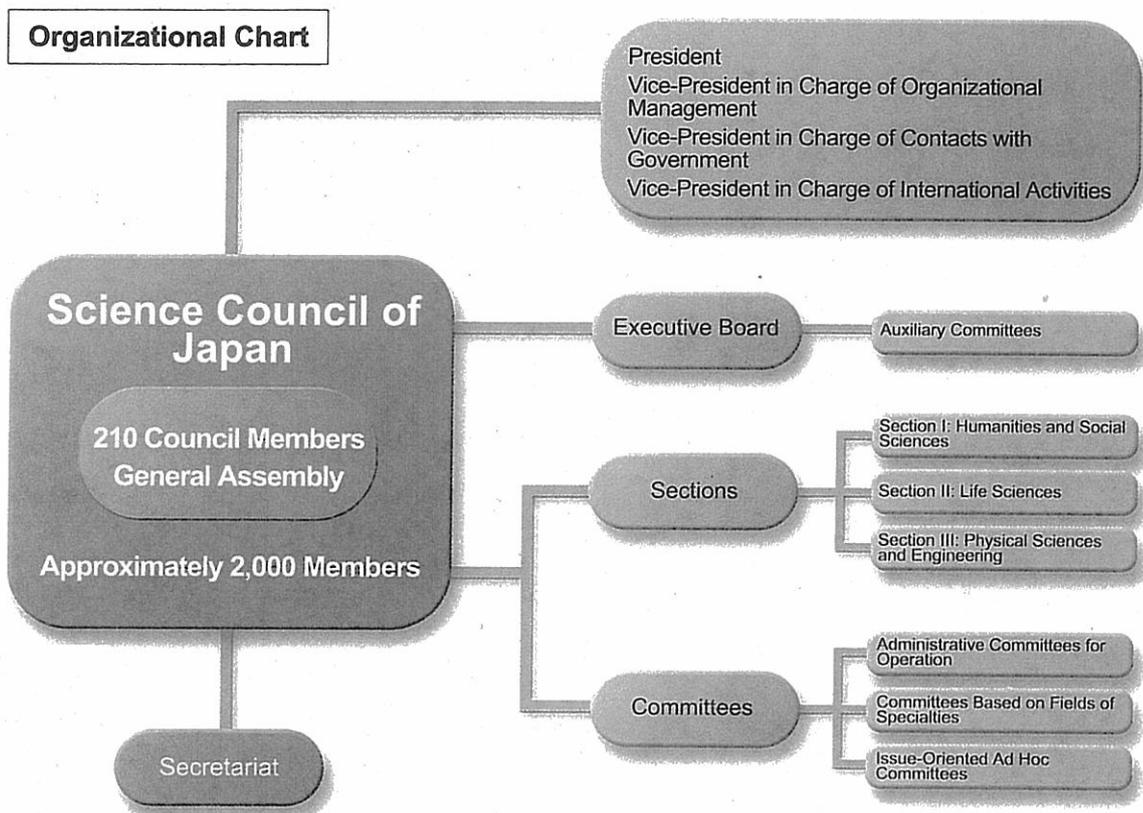
※ 財政状況が厳しいことから加入に伴う分担金の予算措置がかなわない状況が続いておりますが、環境が改善し次第、分担金の予算措置を得ることとなっております。

日本学術会議加入国際学術団体一覧(加入順)

46団体(SCA含む(平成23年10月現在))

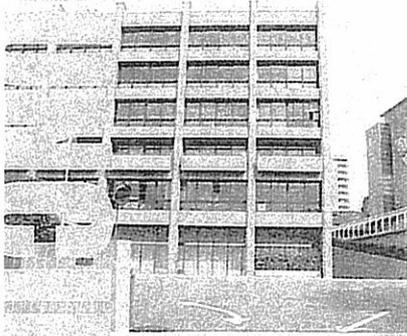
No.	国際学術団体名称		加盟年	
	日本語名	欧文名	元号	西暦
1	国際科学会議(ICSU)	The International Council for Science	昭和 24	1949
2	国際天文学連合(IAU)	International Astronomical Union	昭和 24	1949
3	国際測地学及び地球物理学連合(IUGG)	International Union of Geodesy and Geophysics	昭和 24	1949
4	国際純正・応用化学連合(IUPAC)	International Union of Pure and Applied Chemistry	昭和 24	1949
5	国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)	International Union of Pure and Applied Physics	昭和 24	1949
6	国際電波科学連合(URSI)	Union Radio-Scientifique Internationale	昭和 24	1949
7	国際生物科学連合(IUBS)	International Union of Biological Sciences	昭和 24	1949
8	国際地理学連合(IGU)	International Geographical Union	昭和 24	1949
9	国際数学連合(IMU)	International Mathematical Union	昭和 24	1949
10	太平洋学術協会(PSA)	Pacific Science Association	昭和 24	1949
11	国際結晶学連合(IUCr)	International Union of Crystallography	昭和 25	1950
12-1	国際科学史・科学基礎論連合[科学基礎論部会](IUHPS-DLMP)	Division of Logic, Methodology and Philosophy of Science, International Union of the History and Philosophy of Science	昭和 25	1950
12-2	国際科学史・科学基礎論連合[科学史部会](IUHPS-DHST)	Division of History of Science, International Union of the History and Philosophy of Science and Technology	昭和 25	1950
13	国際理論・応用力学連合(IUTAM)	International Union of Theoretical and Applied Mechanics	昭和 25	1950
14	国際生理科学連合(IUPS)	International Union of Physiological Sciences	昭和 27	1952
15	国際光学委員会(ICO)	International Commission for Optics	昭和 29	1954
16	国際オリエント・アジア研究連合(IUOAS)	International Union for Oriental and Asian Studies	昭和 30	1955
17	国際生化学・分子生物学連合(IUBMB)	International Union of Biochemistry and Molecular Biology	昭和 31	1956
18	法学国際協会(IALS)	International Association of Legal Science	昭和 33	1958
19	南極研究科学委員会(SCAR)	Scientific Committee on Antarctic Research	昭和 34	1959
20	宇宙空間研究委員会(COSPAR)	Committee on Space Research	昭和 34	1959
21	海洋研究科学委員会(SCOR)	Scientific Committee on Oceanic Research	昭和 36	1961
22	国際地質科学連合(IUGS)	International Union of Geological Sciences	昭和 37	1962
23	国際純粋・応用生物物理学連合(IUPAB)	International Union for Pure and Applied Biophysics	昭和 38	1963
24	科学技術データ委員会(CODATA)	Committee on Data for Science and Technology	昭和 43	1968
25	国際経済学協会(IEA)	International Economic Association	昭和 44	1969
26	国際第四紀学連合(INQUA)	International Union for Quaternary Research	昭和 44	1969
27	国際鉱物学連合(IMA)	International Mineralogical Association	昭和 45	1970
28	太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)	Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics	昭和 45	1970
29	国際自動制御連盟(IFAC)	International Federation of Automatic Control	昭和 46	1971
30	国際栄養科学連合(IUNS)	International Union of Nutritional Sciences	昭和 46	1971
31	世界工学団体連盟(WFEO)	World Federation of Engineering Organizations	昭和 47	1972
32	国際経済史協会(IEHA)	International Economic History Association	昭和 47	1972
33	気候変動国際協同研究計画(WCRP)	World Climate Research Programme	昭和 48	1973
34	国際歴史学委員会(CISH)	Le Comité International des Sciences Historiques	昭和 49	1974
35	国際薬理学連合(IUPHAR)	International Union of Pharmacology	昭和 50	1975
36	国際社会科学団体連盟(IFSSO)	International Federation of Social Science Organizations	昭和 52	1977
37	国際地図学協会(ICA)	International Cartographic Association	昭和 54	1979
38	国際実験動物(科学)会議(ICLAS)	International Council for Laboratory Animal Science	昭和 55	1980
39	アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)	Association of Asian Social Science Research Councils	平成 元	1989
40	国際北極科学委員会(IASC)	International Arctic Science Committee	平成 3	1991
41	国際微生物学連合(IUMS)	International Union of Microbiological Societies	平成 3	1991
42	国際農業工学会(CIGR)	Commission Internationale du Génie Rural	平成 7	1995
43	アイエーピー(IAP)	IAP:the global network of science academies	平成 8	1996
44	インターアカデミーカウンスル(IAC)	InterAcademy Council	平成 12	2000
45	アジア学術会議(SCA)	Science Council of Asia	平成 12	2000
46	国際土壌科学連合(IUSS)	International Union of Soil Science	平成 16	2004

Organization of the Science Council of Japan



Organization of the Science Council of Japan

- The Science Council of Japan (SCJ) consists of 210 Council Members who have been elected as representatives of the approximately 840,000 scientists nationwide and some 2,000 Members. It conducts activities from a universal perspective and a comprehensive and multifaceted point of view, taking advantage of the fact that it is comprised of scientists from a broad-range of specialist fields including the humanities and social sciences, life sciences, and the physical sciences and engineering.
- SCJ Council Members are selected and recommended from amongst scientists with excellent research or achievements, and are appointed by the Prime Minister. Their term of membership is six years, and they retire when they reach 70 years of age.
- Members perform some of the functions outlined above in cooperation with SCJ Council Members. They are selected and recommended from amongst scientists with excellent research or achievements, and are appointed by the SCJ President. In principle, their term of membership is six years.
There are also some Members, who are appointed for a required period of three years or less so as to participate in international affairs or in deliberations on a specific technical matter of a committee.
- The SCJ President is in charge of running of the council, and represents the SCJ. The President is selected by way of an internal vote amongst SCJ Council Members. The three Vice-Presidents assist the President. They are nominated from among Council Members by the President with the approval of the General Assembly.
Their terms of office are three years; however they may be reelected and reappointed.



Science Council of Japan

Compiled and published by the
Science Council of Japan

[Inquiries]
International Affairs Division, Secretariat,
Science Council of Japan

7-22-34 Roppongi Minato-ku, Tokyo, Japan

106-8555
Tel: +81-3-3403-5731
Fax: +81-3-3403-1755

